

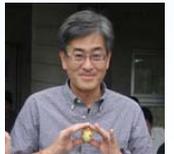
CONTENTS

- 挨拶・・・1
 - ・ 宗教部長
 - ・ 学生宗教委員長
- 新入生オリエンテーション・・・2
 - ・ 短大新入生オリエンテーション
 - ・ 四大新入生オリエンテーション
- 前期キリスト教週間・・・3
 - ・ キリスト教講演会
 - ・ 学生企画プログラム①&②
- 宗教部活動報告・・・4
 - ・ 学生宗教委員会より
 - ・ 「慰霊の日を覚える祈祷会」
 - ・ サマー聖書キャンプ案内

宗教部 ニューズレター

『宗教部ニューズレター』第5号発行によせて

平素より、沖縄キリスト教学院宗教部の活動にご理解・ご協力を頂き感謝申し上げます。宗教部は2015年度「キリストの平和と真理のうちに生きる」(Living within Christ's peace and truth)を年間テーマに掲げてキリスト教活動を展開してゆきます。対話と国際交流よりもテロや軍備拡張を選択しつつある今日の世界情勢の中で、かつて地上戦を経験した沖縄に立つキリスト教大学の宗教部として、キリストの示す真理とそれに根ざす平和の尊厳を諸活動をとおして少しでもお伝えすることができれば幸いです。



宗教部長 青野和彦

宗教部 HOPE について

宗教部にはHOPE(希望)という別の名前がついています。誰がいつつけたのかわからないのですが、この名前が私はとても好きです。なぜなら、私が親しんでいる本(聖書)には希望のメッセージがたくさん詰まっているからです。そのメッセージを文字ではなく、行動で人に見える形にしていけるクラブが宗教部ではないかと思えます。

「宗教部」と聞くと、あやしいグループや、宗教研究を行う集いなどを想像される方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちHOPEはキリ学のハートであるキリスト教行事を学生側から楽しく企画して、盛り上げていく活動をしています。実は、メンバー14名中のおよそ半分がクリスチャン(聖書の神を信じる人)ではありません。HOPEにはクリスチャンであるなしに関係なくメンバーが楽しめる環境があります。ここで大切なのは、神様を知らない人が神様に出会うためのチャンス作りです。

普段、学校や社会では生きる意味を教わることはないと思います。そして、生きる意味はその人の信じるようにしかならないと思います。クリスチャンは生きる意味を聖書に見いだします。聖書を神の言葉として信じるからです。この「宗教」というより、ライフスタイルをHOPEと活動を共にしながら、ぜひ少しでも覗いてみてください。

そして一緒に、希望を人々に届けましょう！



学生宗教委員長 英語科2年 松本 真輝

新入生オリエンテーション



短期大学新入生オリエンテーション (4月4日)



今年度の短大「新入生オリエンテーション」は、過去2年間と同様、1日型のスケジュールの中で「建学の精神の理解」、「アカデミック・オリエンテーション」、「学生・教職員間の交流」という三本柱のもとに実施されました。宗教部は今回も、その柱の一つである「建学の精神の理解」を担当しました。ここでは、「開会礼拝」を中心に報告させていただきます。

今年も金城重明先生(本学第三代学長・名誉教授)をお迎えし、「イエス・キリストとの出会い—強制集団死からキリストに生かされて—」という題名で奨励して頂きました。金城先生は戦時中の渡嘉敷島での集団強制死の体験を通して、ご自身が入信された経緯、またキリストに出会うことによって戦争体験の苦悩から解放されたことを紹介下さいました。特にその体験から、「マタイによる福音書」16:26に基づいて命の尊厳の重さを強調されました。また先生は、本学の建学の精神が武力放棄を訴えたキリストの教えを土台とする「命の尊厳」を伝えてゆくものであることも教えて下さいました。なお今回は、もう少し金城先生のお話をじっくり聴きたいという昨年度のアンケートの意見を反映して礼拝時間を55分に延長しました。その結果、私達は金城先生のメッセージをとおして建学の精神を昨年以上に深く理解できたものと確信します。

今回も昨年度と同様、この礼拝をとおして殆どの学生達が初めてキリスト教に接したことと思います。この体験が契機となって学生達は毎週の「月曜礼拝」や前期キリスト教週間の教講演会に自主的に参加し、感想文も熱心に作成してくれるようになりました。今後、学生達が建学の精神を一層理解する上で、また自己の人生の方向を発見する上でも、本学の教育の特色であるキリスト教教育が良き「道標」になってゆくことを望んでおります。

人文学部英語コミュニケーション学科新入生オリエンテーション (5月13日~15日)

標記オリエンテーションにおいて、宗教部は開会・閉会礼拝、講演会、「朝のつどい」(讚美礼拝)を担当しました。ここでは主に講演会について報告させていただきます。

昨年と同じように、金城重明先生が「イエス・キリストとの出会い」というタイトルで講演をなされました。金城先生は渡嘉敷島で体験された凄惨な集団自決(強制集団死)を経て、戦後、キリスト教信仰をもつに至った経緯、牧師になる勉学をするため、糸満高校から青山学院大学神学科への進学したこと、さらにはユニオン神学校留学体験を語って下さいました。金城先生がキリスト教にふれた契機は、キリスト者であった戦争引揚者から譲り受けた聖書との出会いであったそうです。しかし、その最大の背景には集団強制死の体験があり、ご自身の救いをキリストの十字架での贖罪(身代りの死)に求められたことを語られました。このキリストとの出会いこそが、金城先生のキリスト教信仰の原点であることを強く感じさせられました。

講演後、質疑応答の時間をもちました。数名の学生より、金城先生のご自身の戦争体験を中心に熱心な質問を受けました。学生達は「フレッシュマン・セミナー」等で事前に平和教育を受けていることもあり、平和への関心の高さがうかがえる質問が目立ちました。

最後に、開会・閉会礼拝、朝の讚美礼拝の司会と奏楽の奉仕をして下さった学生宗教委員の学生達と宗教委員のシンハ先生に謝意を表したいと思います。





前期キリスト教週間「キリスト教講演会」(4月23日)



題：「沖縄戦から70年—沖縄キリスト教学院大学・短期大学の礎(基)—」

講師：又吉京子氏(沖縄キリスト教センター館長代理)

「1%の人口に、0.6%の土地に、74%の米軍専用施設を押しつけるのは差別です。差別の温存の中に戦争を生む要因が隠されている。このことは沖縄戦を体験した子孫として継承したいです」。うちなーぐちの挨拶で講演をスタートした又吉氏は、このメッセージを力強く語られました。講演では、又吉氏は沖縄キリスト教短期大学保育科での学びの時から現在までに出あった聖句(聖書の言葉)を重ねながら話しを進行されました。又吉氏はキリ短入学時に、本学院を生み出した首里教会との出会いが、ご自身を半世紀かけて育ててくれるきっかけを作ってくれたと語られました。このキリ短での勉学時には山里勝一牧師、金城重明先生、キソール宣教師との出会いも大きな影響を受けたとのこと。また講義では、郷土史の中で学んだ「日琉同祖論」や伊波普猷も以後の活動への有益な学びになったこともお話しされました。

さて、冒頭の又吉氏のメッセージの原点になったのが、「なぜ、沖縄が戦場になったのか? どうして非戦闘員である一般市民が日米両軍より多くの犠牲を出したのか?」という問いでした。又吉氏はそこから歴史の検証の必要性を唱え、1872年から1879年にかけて琉球国を琉球藩にし、沖縄県にしてきた日本の現代史の中での日本政府による「差別と同化」政策が沖縄戦に連結していると語られました。そして、その「差別と同化」の呪縛から解放されるために沖縄を意識しつつ、小さいものをこよなく愛し力づける神の存在を覚えることもご自身にとって大切な支えになっていることにもふれられました。

最後に、又吉氏は生ある限り沖縄の地に立つ一人として、うちなーぐちで聖書に聞きつつ、祈りつつ、主体的にイエス・キリストをご自分の歩みの礎とされていることを証しされました。ご自身の現在の平和活動の原点に、キリストへの信仰とそれを培ったキリ短での貴重な学びと出会いの豊かさを感じさせられた講演でした。特にそこには、これからの時代を担う学生達が客観的な歴史認識に立ちつつ、沖縄での平和活動を継承することへの期待が込められていました。



学生企画礼拝



2015年度前期の月曜礼拝では学生宗教委員(HOPE)による企画礼拝を2回計画・実施しました。学生宗教委員のメンバーは学内のキリスト教活動の大切な役割を常に担って下さっています。なお、これらの風景は学院HPとフェイスブックからもご覧になれます。

①学生による証し(6月1日)

森本彩さん(人文学部3年)、糸数朝美さん(短大保育科1年)、新垣美郷さん(人文学3年)が、それぞれの立場からキリスト教に出あった経緯、生活の中で大切にしている聖書の言葉、これからの信仰生活の中で目標とする生き方などについて、とても熱心に語って下さいました。

②聖書劇(6月29日)

学生宗教員が「ルカによる福音書」15:12~13から「放蕩息子の帰宅」と題する演劇を上演しました。聖書を現代風に脚色して、ユーモアを交えながら、神の人間(放蕩息子)に対する深い愛と「赦し」を讃美歌合唱と共にとっても上手く伝えて下さいました。学生による演劇ということもあり、聴衆の学生達はより親近感をもって参加して下さいました。学生による演劇ということもあり、聴衆の学生達はより親近感をもって参加して下さいました。学生による演劇ということもあり、聴衆の学生達はより親近感をもって参加して下さいました。





「慰霊の日を覚える祈祷会」

(6月22日)



宗教部では新しい試みとして、本行事を開催しました。その主旨は慰霊の日の前日に沖縄戦の戦没者の方々を覚え、本学の建学の精神でもあるキリストにある「平和を実現する者」(ピース・メーカー)の養成への決意を新たにしておくことにあります。本学が位置する西原町翁長も隣接する棚原集落も凄惨な地上戦で多くの住民が犠牲になった土地です。祈祷会の中では、青野宗教部長によるメッセージ「慰霊の日を覚えて一正義を止めないために一」に続いて、中原俊明学長による教職員代表祈祷、佐久眞基子さん(人文学部4年)

による学生代表祈祷が捧げられました。当日は12:30から12:50までの20分という短い時間での開催でしたが、37名の参加者の方々と祈りを共有できたことは大きな喜びでありました。

✿ 祈祷会のおしらせ ✿

人文学部3年 山口 舞

毎週木曜日18時からキリスト教研究所(チャペルに入って右の部屋)で祈祷会を行っています。

学生による祈祷会ですので、楽しい雰囲気です。聖書の朗読、賛美、シェアリングをすることができます。

ちなみにシェアリングとは、みんなに聞いてほしいことをどんな内容でもいいので話し、共有することです。

興味がある方はぜひ参加してください。

✦ 前期キリスト教週間を振り返って ✦

人文学部3年 新垣 美郷

去る4月の第4週目に、キリスト教週間がありました。一週間、様々なイベントが盛りだくさんでした!

月曜日には朝の礼拝、火曜日はイースターエッグハントがありました。ゆでたまごにカラフルなデザインの色付けをし、2チームに分かれて、たまご探しゲームやクイズをしました。優勝チームには豪華景品がありました。

水曜日のお昼には、シャロームラウンジでランチ会があり、木曜日には、キリスト教センターの又吉京子氏を迎えての講演会がありました。基地や平和について深く考えるきっかけとなりました。

金曜日にはチャペルで宗教部によるゴスペルライブがありました。新たなワーシップソングに挑戦し、会衆の皆さんと楽しく賛美をしました。

キリスト教週間を通して、みなさんにキリスト教を身近に感じてもらえると思います。この様々なイベントを通して、私たち宗教部も成長することができました。また、これから後期のキリスト教週間もありますのでどうぞご期待ください。

サマー聖書キャンプ

宗教部主催のサマー聖書キャンプが本年度も行われます。本島でも平和学習をしながら伊江島で2泊し、ビーチやタッチュー等の自然と触れ合いながら聖書を基に平和について深く学び、学生同士の交流を深める素晴らしい機会となることを期待しています。



参加者募集

募集人数: 12名

募集締切: 2015年7月31日(金)

※店員に達し次第締め切り

申し込み・問い合わせ

shukyobu@ocjc.ac.jp

098-946-4152



日程: 2015年8月19日(水)~21日(金)

1日目: 戦地巡り、伊江島へ移動

2日目: 伊江島の戦地巡り他

3日目: 伊江島~学院、解散

参加費: 5,000円

※費用には宿泊費、交通費、保険料等を含みます。
5,000円を超える費用は学院が補助します。



編集後記

宗教部の主な活動について、紙面にて紹介させていただきました。沖縄キリスト教学院のFacebookページでさらに詳しく、ここで紹介出来なかった活動も掲載されています。ぜひご覧になり、「いいね!」とともに応援をお願い致します!

Facebookページ: <http://www.facebook.com/OCU.OCJC>

宗教部ニューズレター 第5号

2015年7月発行

発行 沖縄キリスト教学院 宗教部

沖縄県中身郡西原町翁長777番地

TEL: 098-946-4152

URL: <http://www.ocjc.ac.jp/index.html>

Email: shukyobu@ocjc.ac.jp

